

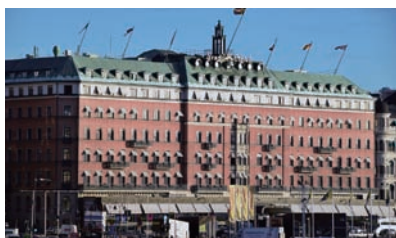
大村智さんメダルを携え帰郷



授賞式の報告のため県庁を訪れ、賞状を披露する大村さん。後藤知事が手にしているのはメダル



ノーベルウィーク中のストックホルム



ノーベルの出身地ストックホルムでは、その命日12月10日に毎年、ノーベル賞授賞式が行われる。その日を中心に関連行事が開催され、ノーベルウィークと呼ばれている。

受賞者が宿泊するグランドホテル



アーランダ国際空港の受賞者を歓迎する看板

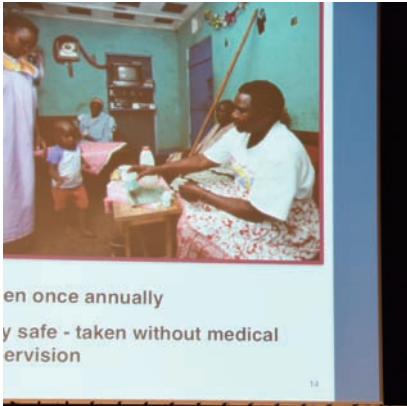
2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞した葦崎市出身の大村智さん。ノーベル賞授賞式のために訪れたスウェーデン王国ストックホルムでの様子取材しました。なお、県では、3月18日、本県初となる名誉県民の称号を大村さんに贈りました。

ふれあい冬号「読者アンケート」から

人の役に立つことをしようと常に心掛けている姿勢に感動(中央市・50代女性)。研究功績はもちろん、飾らない人柄に感動(北杜市・60代女性)。先生の甲州弁に愛県心を深く感じる(富士吉田市・80代女性)。興味を持ったことへの探究心や最後まで諦めない気持ちを学べた(笛吹市・20代男性)。大村美術館で先生とお話でき、至福の時でした(甲府市・70代女性)。大村語録「眺望は人を養う」が好きです(北杜市・50代女性)。亡くなられた奥さまが一番喜んでいられるでしょう(上野原市70代・女性)。



ノーベル賞受賞記念講演会 12月7日



データや画像を使いながら英語で講演

受賞対象となった研究の概要などについて、受賞者が講演を行う。会場となったカロリンスカ研究所の前に開場の3時間以上前から聴講者が行列をつくるほどの大盛況だった。

大村さんは、イベルメクチン開発の経緯や、アフリカをはじめ世界各地にもたらした効果について講演。満員の会場からは大きな拍手が送られた。



他の受賞者の講演を聴講する大村さん



ノーベル博物館 12月6日

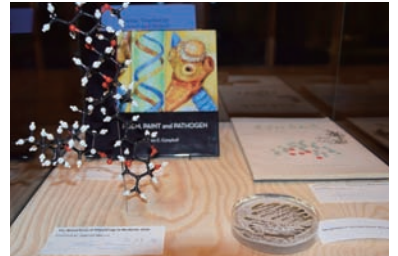


ノーベル博物館訪問後、記者の質問に答える大村さん

ノーベル賞や歴代受賞者の創造的な活動を展示や映像などで紹介するノーベル博物館。大村さんも授賞式前に訪れ、イベルメクチンの分子模型や微生物のサンプルなどを寄贈した。また、受賞者は、館内の飲食店「ビストロ・ノーベル」の椅子の裏にサインすることが恒例になっている。



真ん中が大村さんのサイン



寄贈した模型やサンプルが展示されている



ノーベル賞受賞祝賀晚餐会 12月10日



晚餐会が行われた「青の間」。スウェーデン国王など約1300人が列席

授賞式直後の祝賀晚餐会は、ストックホルム市庁舎内「青の間」で開催される。

大村さんの座席は、クリスティーナ王女の隣。王女と歓談する姿などがテレビ中継された。



ストックホルム市庁舎。晚餐会後の舞踏会が行われる「黄金の間」は、1800万枚の金箔やガラスのモザイクで彩られた壁が圧巻



ノーベル賞授賞式 12月10日



ストックホルムコンサートホール。1920年代の新古典主義建築を代表する建物

授賞式は、ストックホルムコンサートホールで行われ、カール16世グスタフ・スウェーデン国王から受賞者一人一人に賞状とメダルが授与された。会場前の広場には大勢の市民や来訪者が集まっていた。



授賞式を終え、ほっとした笑顔を見せながら晚餐会会場に向かう